

## 日本語学校つくばスマイル 2025年度分 自己点検・評価 報告書

2026年4月～5月に実施し、5月11日職員会議にて審議の上、校長が承認した。承認後、設置代表者に報告した。

A:達成している      B:一部達成している      C:改善が必要

1. 教育の理念・目標と、その具体化のための方策	評価
<p>〈教育の理念〉</p> <p>日本語教育を通して、日本社会の中で自分の生活と進路を主体的に築いていくことのできる人材を育てること</p>	
<p>〈目的〉</p> <p>本校の教育の目的は、生徒一人ひとりが日本語によるコミュニケーション能力を身につけ、日本社会の仕組みや生活環境を理解し、進学先およびその先の日本での生活において安心して学び、行動できる基盤を築くことです。</p> <p>そのために、本校では日本語能力の向上と社会生活への理解を結び付けた教育課程を編成し、生徒が自らの進路と生活を主体的に考える力を育てます。</p> <p>また、母国を離れ日本で生活することへの不安を抱える生徒が、学校を安心できる居場所として感じながら、自分の力で課題に向き合い成長していけるよう支援します。</p>	
<p>〈目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学先の大学・専門学校等において専門分野の学びを進めることができる日本語コミュニケーション能力を身につけること</li> <li>・日本で生活する上で必要な情報を収集し、判断し、適切に行動する力を身につけること</li> <li>・地域社会や周囲の人々と円滑な関係を築こうとする姿勢を育てること</li> <li>・自分の学習や進路を振り返り、目標を設定し、次の行動につなげる自己調整力を育てること</li> </ul>	
① 上記の「理念」と「目標」とが、お互いにどのように関連しあっているかを説明できる。	B
② 理念、教育目標及び育成する人材像が、教職員及び学生に周知されている。	A
<p>〈現状・具体的な取り組み、課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に配布する「手引き」に、理念・目標・人材像をわかりやすく明記している。</li> <li>・2025年度から教職員向け指導の手引き内にも明記した。職員会議でも周知を図った。</li> <li>・社会的なニーズを考慮し、理念・目標・人材像の文言のアップデートを行った。</li> </ul> <p>〈目標の達成度〉</p> <p>・学生への年度終わりのヒアリングの結果、生活における行動の自主性、地域社会への親しみ、進学の目標を達成した充実感を感じている学生が、多いことが確認できた。今後は量的な把握ができるように努める。</p>	
2. 学校運営	評価
① 認定日本語教育機関認定基準又は日本語教育機関の告示基準に適合していることを年1回以上確認している。	A
② 運営の透明性が確保されている。	A
③ 運営に必要な情報が機関内の関係者間で共有されている。	B
④ 運営にあたり法令を遵守している。	A
<p>〈現状・具体的な取り組み、課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2026年度1回目の認定日本語教育機関への申請の準備としても、諸規則・内規の新規作成・改訂</li> </ul>	

<p>を進めた。校内の責任者を明確にし、動きやすい組織運営に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各会議・ミーティングの役割を教職員がより理解し、情報の共有に今後努める。</li> </ul>	
<b>3. 情報公開</b>	<b>評価</b>
① 機関の設置者、教育内容、定員、進路等の情報をホームページ等で公開している。	B
② 募集及び納付金に関する情報を公開している。	A
③ 入学希望者やその関係者に理解できる言語で情報提供を行っている	A
④ 情報は十分に整理されて公開されており、必要な情報がどこにあるかが分かりやすく示されている。	A
⑤ 公開されている情報は常に最新のものに更新されている	B
<p>〈現状・具体的な取り組み、課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校ホームページに公開する必要がある項目のうち、学則・進路など、いくつかは抜けているので、2026年度5月中には追加・修正を行う。</li> </ul>	
<b>4. 入学者の募集と選考</b>	<b>評価</b>
① 適切な方法で入学者の募集を行っている。	A
② 適切な方法で入学者の選考が行われている。	B
<p>〈現状・具体的な取り組み、課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電話でのやり取りが多いと、提供した情報の確認ができないことから、応募者・紹介者ともにメール等記録が残る形でのやりとりを進める。</li> <li>校内での選考基準の確立と共有をさらに進める。</li> </ul>	
<b>5. 教育活動</b>	<b>評価</b>
① 教育目標に合致した教育活動の計画を作成している	B
② 教育活動を適切に実施するための手立てを講じている。	A
③ 授業を含む教育活動全体の検証を定期的かつ適切に行っている。	A
<p>〈現状・具体的な取り組み、課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生が自身の学習を振り返ることができるよう、カリキュラム内に特別な時間を設けたり、ポートフォリオを作成する工夫を進めている。</li> <li>学期ごとの非常勤講師を含めた会議で、教育活動の計画や実施方法についての周知をする機会を設け、質疑応答を充実させることで、理解の促進に努めた。</li> <li>学生からの学期ごとの振り返りフォームの回収と、学年末のヒアリングを実施した。</li> </ul>	
<b>6. 教職員育成</b>	<b>評価</b>
① 教育力及び支援力強化のための取り組みを行っている。	A
② 教職員の自己評価等を含む多面的な教職員評価を行っている。	A
<p>〈現状・具体的な取り組み、課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本校の教員として必要な資質など、明文化した資料を毎期の講師ミーティングの際に提示している。</li> <li>校外の研修についても情報発信に努めている。</li> <li>授業見学の機会を設けた。</li> </ul>	
<b>7. 学生支援</b>	<b>評価</b>
① 日本社会を理解し、一構成員として活動するための取組を適切に行っている	A
② 進路指導を適切に行っている。	A
③ 安全な留学生活を送るために適切な取組をしている。	A
④ 入国・在留に関する指導及び支援を適切に行っている。	A
<p>〈現状・具体的な取り組み、課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>防災意識を高めるような取り組みを実施した。</li> </ul>	

・ 市民の知識として納税の仕組みについて、県税務事務所や市役所と連携し、説明の機会を設けた。	
<b>8. 施設・設備</b>	評価
① 語学学習に適した施設・設備である。	A
② 学生及び教職員の安全を考慮し、適切な対処を行っている。	A
〈現状・具体的な取り組み、課題〉 ・ 教室内備品の整理整頓、通路にものを置かないなどの指導を行っている。	
<b>9. 地域貢献・社会貢献</b>	評価
① 地域貢献・社会貢献となる活動を行っている。	A
〈現状・具体的な取り組み、課題〉 ・ 地域社会における行事や、学校等との交流の機会を持っている。	
<b>10. 財務</b>	評価
① 日本語教育を継続的に行うために適切な財務状況である。	A
② 入学者の募集等に係る仲介手数料は適正に管理されている。	A
〈現状・具体的な取り組み、課題〉 ・ 財務状況は中長期的に安定している。 ・ 入学者の募集に関わる仲介業者への手数料については、募集説明会、応募者選考、書類作成支援、出国前オリエンテーション等の具体的な業務内容を想定し、生徒一人あたりの単価として算定している。 ・ 業者ごとに現地対応の頻度・内容等が異なることから、単価に差異が生じる場合があるが、いずれも業務内容に照らした合理的な根拠に基づいて設定している。 ・ 仲介手数料の額は、生徒一人当たりの授業料等と比較して相当程度高額とはなっていないことを確認している。 ・ 手数料の設定については、契約締結時に内容を確認し、事務局長が管理している。改定が生じた場合は、その都度根拠を確認の上、記録を保管している。	
<b>11. 卒業の認定及び学習の成果</b>	評価
① 卒業の認定基準が明確に定められ、適切に運用されている。	A
② 学習の成果を適切な方法で把握し、教育改善に活用している。	B
〈現状・具体的な取り組み、課題〉 ・ 卒業の認定については、学則に定める出席率及び修了要件に基づき、全生徒について適切に審査・判定を行っている。 ・ 学習成果の把握については、学期末の振り返りフォーム、年度末のヒアリング及び成績データを用いて多面的に確認している。 ・ 今後は、学習成果の量的な把握（到達目標に対する達成率等）の仕組みを整備し、教育改善への活用をより体系的に進める。	
<b>12. 教育活動等の改善を継続的に行う仕組み</b>	評価
① 自己点検・評価の結果を教育改善に継続的に反映する仕組みが整備されている。	A
② 改善の実施状況を確認し、次のサイクルにつなげている。	B
〈現状・具体的な取り組み、課題〉 ・ 自己点検・評価規程に基づき、毎年度の点検・評価サイクル（実施→報告書作成→職員会議審議→校長承認→公表→改善計画策定→次年度反映）を整備し、運用している。 ・ 改善が必要と判断された事項については、担当者及び実施時期を定めた改善計画を作成し、次年度の教育計画及び学校運営に反映している。 ・ 改善状況は翌年度の点検・評価において確認しており、継続的な PDCA サイクルとして機能している。	

る。

- ・課題として、改善計画の進捗を中間時点でも確認できる仕組みの整備を進める。

#### 総括（達成状況、課題など）

日本語学校としては、法務省告示基準を順守するとともに、文科省認定日本語教育機関の基準への適合に向けた準備を進め、適切に運営できている。また、文科省の認定日本語教育機関となるべく、準備を進め、2026年度1回目に申請を行う。そのために校内の諸規程、内規の整備を進めた。今後は、規程・内規に従って、組織的な教育活動・生活支援が行えるよう、教職員の情報共有を進めていくことが大切であるという認識を、教職員全員が持っている。

学生の在籍管理については、出入国在留管理庁から「適正校 クラスⅠ」と今年度も認定されているが、不安要素もあることから、引き続き学生とのやりとりを強化していきたい。

本校始まって以来、最も多い卒業生を出した年度であった。それぞれの学生が100%満足できる進路を見つけられたとは言えない。卒業後の進路について、より学生が考え、主体的に動けるような指導を行っていく。

※日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律及び関係規則に基づき、本校に関する自己点検・評価を実施し、報告書を作成した。なお、点検・評価項目は、一般財団法人日本語教育振興協会の「日本語教育機関のための自己点検・評価項目（2025年版）」（令和6年10月）にしたがった。